

令和2年度
第3回 岩見沢市地域公共交通活性化協議会

【本編】

令和2年12月18日（金）
岩見沢市企画財政部企画室

議事 (1) 「地域公共交通計画」の策定 (「地域公共交通網形成計画」の見直し) について

■ 「岩見沢市地域公共交通計画」の骨子 (たたき台)

※ 国土交通省「地域公共交通計画の作成と運用の手引き 第1版(令和2年11月)」を参考に構成

1. 序章

- (1) 計画策定の趣旨
- (2) 計画の対象区域
- (3) 計画の期間

2. 岩見沢市の概況

- (1) 岩見沢市の概況
 - ① 地理・地勢
 - ② 歴史的経過
 - ③ 交通網の現況
 - ④ 人口と産業
- (2) 岩見沢のまちづくり
 - ① 関連計画との連携
 - ② 広域的な連携

3. 公共交通の現況と課題

- (1) これまでの経過と取組み
- (2) 公共交通の現況
 - ① 公共交通の現況
 - ② 「H28地域公共交通網形成計画」の進捗
 - ②-2 「H29再編実施計画」による取組み
 - ③ JR北海道路線の現況
 - ④ 市負担額の推移
- (3) 道内交通の中の岩見沢市
- (4) 公共交通をめぐる新たな課題
 - ① 人口構造の変化 (人口減少と少子高齢化)
 - ② 公共交通の担い手確保
 - ③ 新たな利用者の獲得
 - ④ 新たな技術と利用ニーズへの対応 (ICTなど)

4. 公共交通の将来像

- (1) 計画が目指す将来像
- (2) これからの公共交通の役割
- (3) 各路線等の役割と方向性

内容については、今回の書面会議の意見等を踏まえて、次回以降整理

5. 基本方針と施策内容

- (1) まちづくりを支える公共交通
(現計画：コンパクトな都市を形成する公共交通網の再構築)
施策①、施策②…
- (2)暮らしを支える公共交通
(現計画：地域特性を考慮した効率的で持続可能な公共交通体系の構築)
施策①、施策②…
- (3) 誰もが利用しやすく効率的な公共交通
(現計画：市民生活の質の向上に資するバスサービスの提供)
施策①、施策②…
- (4) 地域で守る公共交通
(現計画：バス交通の利用促進策の展開)
施策①、施策②…

6. 計画の進捗管理

- (1) 計画の進捗管理
 - ① PDCAサイクル
 - ② 目標値

議事（1）「地域公共交通計画」の策定（「地域公共交通網形成計画」の見直し）について

■「岩見沢市地域公共交通計画」の骨子（たたき台）

～構成項目ごとの記載内容（案）～

1. 序 章

(1) 計画策定の趣旨

- 法的根拠（地域公共交通活性化再生法第5条）を明記
- 岩見沢市の公共交通における位置づけ（公共交通のマスタープラン）を記載
- 計画の性質（地域内旅客運送サービスの持続的な提供を確保するための計画）についての説明を記載

(2) 計画の対象区域

- 岩見沢市全域を対象区域とすることについて記載
- 他自治体と岩見沢市に跨る旅客運送サービスについては、持続的な確保を図ることを目的として関係団体等と連携していく方向性について記載

(3) 計画の期間

- 令和3年度～令和7年度の5年間程度を計画期間とすることを想定
- 計画期間内であっても、状況の変化により、必要な見直しを行うことができることについて記載

議事（1）「地域公共交通計画」の策定（「地域公共交通網形成計画」の見直し）について

■「岩見沢市地域公共交通計画」の骨子（たたき台）

～構成項目ごとの記載内容（案）～

2. 岩見沢市の概況

(1) 岩見沢市の概況

① 地理・地勢

- 地理的条件（道央に位置し、市内西部は石狩平野、東部は夕張山地へと続く丘陵地帯、面積など）についての説明を記載
- 気象条件（明瞭な四季、豪雪地帯）についての説明を記載

② 歴史的経過

- 交通とのかかわりを中心に、幌内鉄道の開通から今日まで、交通の要衝として発展してきた経過について記載
- 炭鉱の閉山による影響（幌内線、万字線廃止、万字・美流渡・朝日等の人口分布の変化など）についての説明を記載

③ 交通網の現況

- 歴史的経過を踏まえ、現在の岩見沢市の交通基盤等について記載
 - 平野部の農業地帯、市街地及び周辺地域、東部丘陵地域などの道路網等の特徴についての説明
 - 国道12号、国道234号、道央自動車道、主要道道、JR函館線、JR室蘭線などが接続する道内交通の要衝であることを説明

④ 人口と産業

- 過去から現在までの人口推移（少子高齢化）、昼夜間人口（流入・流出の傾向など）、市内の人口分布などについて記載
- 基幹産業である農業を中心に、産業構造等について説明

議事（1）「地域公共交通計画」の策定（「地域公共交通網形成計画」の見直し）について

■「岩見沢市地域公共交通計画」の骨子（たたき台）

～構成項目ごとの記載内容（案）～

2. 岩見沢市の概況

(2)岩見沢市のまちづくり

①関連計画との整合

- 総合計画、都市計画マスタープラン、北海道交通政策総合指針などの概要と、地域公共交通計画との関係について説明
- 各計画に関連して、まちづくりの視点から、公共施設の分布等について説明

②広域的な連携

- 道内の交通の要衝として、北海道の取組み等と連携を図ることについて記載
- 通学や買い物など、日常生活における結びつきを持つ生活圏の中心市として、南空知圏域で連携を図ることについて記載
- 人口が集中し、通勤・通学、仕事や観光などでの往来も多い道央圏の市として、さっぽろ圏で連携を図ることについて記載

3. 公共交通の現況と課題

(1)これまでの経過と取組み

- 公共交通に関する事項について、過去からの経過のまとめを記載

(2)公共交通の現況

①岩見沢市の公共交通網

- 岩見沢市の公共交通網の現況について、路線図等を用いて説明を記載

議事（1）「地域公共交通計画」の策定（「地域公共交通網形成計画」の見直し）について

■「岩見沢市地域公共交通計画」の骨子（たたき台）

～構成項目ごとの記載内容（案）～

3. 公共交通の現況と課題

②岩見沢市地域公共交通網形成計画（H28～R2）の進捗

- 現在の地域公共交通網形成計画の基本方針と施策に沿って、取組み状況等についての検証を記載
- 地域公共交通網形成計画を具体化させるための計画↓

②-2 岩見沢市地域公共交通再編実施計画（H29～R2）による取組み

- 計画に基づく公共交通の利用状況、路線の性質、収支状況の分析（H30調査、事業者提供資料等）等について記載
- 現在の地域公共交通網形成計画の第6章の施策の進行管理の目標値と現況についてのまとめ（分析・評価）を記載

③JR北海道路線の現況

- 岩見沢～札幌、岩見沢～旭川、岩見沢～沼ノ端の利用状況等について記載
- H28.11のJR北海道単独維持困難線区公表以降の動き、H29乗降調査、JR資料などから室蘭線の現況について説明

④市負担額の推移

- 公費負担額（市補助など）の推移について記載

議事 (1) 「地域公共交通計画」の策定 (「地域公共交通網形成計画」の見直し) について

■ 「岩見沢市地域公共交通計画」の骨子 (たたき台)

～構成項目ごとの記載内容 (案)～

(3) 道内交通の中の岩見沢市

- 道交通指針を引用し、道央圏の役割についての説明を記載
- 札幌、新千歳空港、苫小牧港、小樽港などと近いこと、JRも含め貨物輸送ルートが経由していることなど、交通上の優位性や役割について記載

(4) 公共交通をめぐる新たな課題

① 人口構造の変化 (人口減少と少子高齢化)

- 人口ビジョンから、人口減少や少子高齢化傾向について、将来推計も含め記載
- 人口減少社会において求められる公共交通の役割や課題について整理し記載 (免許返納者数増→地域での暮らしの維持など、都市機能の集約→周辺部から市街地への移動手段など)

② 公共交通の担い手の確保

- 全国的な乗務員不足の状況について、その背景も含めて記載 (少子化、拘束時間の長さなど)

③ 新たな利用者の獲得

- 公共交通の新たな利用方法、新たな利用目的などを提示し、新たな利用者の獲得に努める必要性について記載

④ 新たな技術と利用ニーズへの対応

- 利便性と効率性向上、乗務員不足への対応などの観点から、Maasや自動運転など、新たな技術の研究の方向性について記載

議事（1）「地域公共交通計画」の策定（「地域公共交通網形成計画」の見直し）について

■「岩見沢市地域公共交通計画」の骨子（たたき台）

～構成項目ごとの記載内容（案）～

4. 公共交通の将来像

(1) 計画が目指す将来像

- 岩見沢市地域公共交通網形成計画に掲げる将来像を、基本的に踏襲しながら必要な修正を加えるイメージで、「安全・安心で快適な暮らしを、将来にわたって支えるための、公共交通網の構築」を目指していく方向性について記載

(2) これからの公共交通の役割

- 公共交通には、まちの賑わいや経済活動を支える役割と、地域での暮らしを支える役割の2つの役割について記載

(3) 各路線等の役割と方向性

- バス路線を中心に、各種交通モードや個別路線の特徴や役割について整理、今後の方向性と併せて記載